

マヒ難字記に癩面疔、ウルムテ、又アヲクソ、又ツシム、又アライロなどよみたり、  
〔本朝年鑑〕文明三年、麻疹流行、

〔妙法寺記〕永正十年癸酉、此年麻疹世間ニ流行ス、大半ニ過タリ、

〔後奈良院宸記〕天文四年十月十一日、今日藤原氏直參御脈、ハシカラ勞ニ、御藥進上、脚細ニ、全體ニ好出云々、

〔醫學天正記 乾上〕癩疹

天正六年夏

一竹門様三宮五歳患癩疹、初發熱甚而不止、半井驢庵療養、作傷暑而治之、三日之後、一身斑紋出、但皮膚之下隱、而不能快發、驢庵改加減快發之葯、雖進上、尙未能出、發熱亦未退、依其御葯斟酌、于時竹田定加法、印奉命加療養、經三五日、斑紋紫色、而遂不起發、熱不退、故又御葯斟酌、又盛方院淨勝法印奉命療養、二三日之後、忽吐血、衄血、太出、久不止、又大小便俱出血、諸醫技既盡、于時予卅歲之時、奉命御脈候、診脈畢ニ、又吐血二碗許、氣既欲絕、先與至寶丹、然後犀牡生芩芍參甘陳之類煎與之、二三日之後、吐血下血止、而皮裡之紫斑漸々退、十餘日而平復、

〔輝資卿記〕慶長十二年

御ひめはし。かいで候よし候へ共、はやくよく候べく候よし候ま、まんぞく申候七十五日のあひだは、どくだちかんようにて候べく候御ひらのたぐひ、まやうくわんなきやう、まかるべく候、いよくゆだんなくせいに入られ候べく候、いづれも人をくだし候て、申參らせ候べく候、めでたく候べく候、

御ち

せうしやう參る